

第104期

株 主 通 信

2017年4月1日～2018年3月31日

KITZ株式会社 **キッツ**

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第104期株主通信をお届けし、当期の業績、2018年度の経営計画及び中長期の成長に向けた取り組みなどについてご報告いたします。

2017年度は、海外市場における石油関連の設備投資の停滞に加え、期の後半には原材料相場のさらなる上昇などのマイナス要因はありましたが、建築設備向けや半導体製造装置向けの好調、国内販売価格改定に伴う収益改善、原価低減活動等により、増収・増益となりました。

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により、持続的に企業価値の向上を図るとともに、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めてまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2018年6月

代表取締役社長 **堀田 康之**

エミール・ガレ
花形ランプ《アイリスのつぼみ》

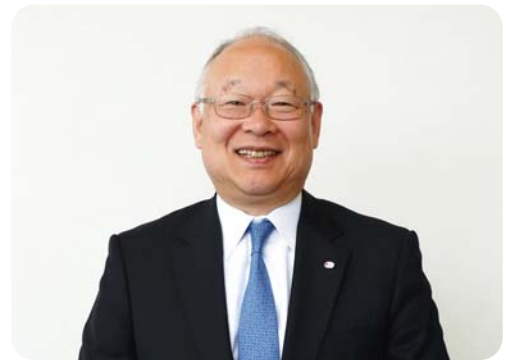
制作年：1900年
高さ：45.8cm

今年、開館35周年を祝う北澤美術館では、19世紀末の日本ブーム「ジャポニスム」の中で、キクやアジサイなど日本の花が果たした役割に注目した特別展「花のジャポニスム」を開催しています。この作品は日本のハナショウブに想を得て、器の形も模様もそのつぼみに似せて制作されたガレの逸品です。

北澤美術館所蔵

キッツは、社会貢献活動の一環として公益財団法人北澤美術館の活動を支援しています。

長期経営計画「KITZ Global Vision2020」の達成に向けた、「第3期中期経営計画(2016年度～2018年度)」の2年目にあたる2017年度の業績及び2018年度の経営計画などについて堀田社長に伺いました。



代表取締役社長 堀田 康之

当期の連結業績の概況

Q 当期は前期比大幅な増収となりました。 A バルブ事業及び伸銅品事業ともに増収

当期の連結売上高は、前期比104億64百万円増の1,245億66百万円となりました。

バルブ事業は、国内市場では、首都圏を中心とする建築設備向けが好調であった他、半導体製造装置向け需要が大幅に増加したことに加え、2017年5月に実施した国内販売価格改定の効果もあり増収となりました。海外市場においては、原油価格の水準は若干回復したものの石油関連の設備投資が依然として停滞し、米州及び欧州向けが減収となりましたが、半導体製造装置向けが日本のみならずアジア向けでも増加したことにより、前期比63億96百万円増の981億62百万円となりました。

伸銅品事業は、黄銅棒の販売量はわずかに減少しましたが、

売価に影響を与える原材料相場が対前期比で大幅に上昇したことから、前期比42億2百万円増の235億35百万円となりました。

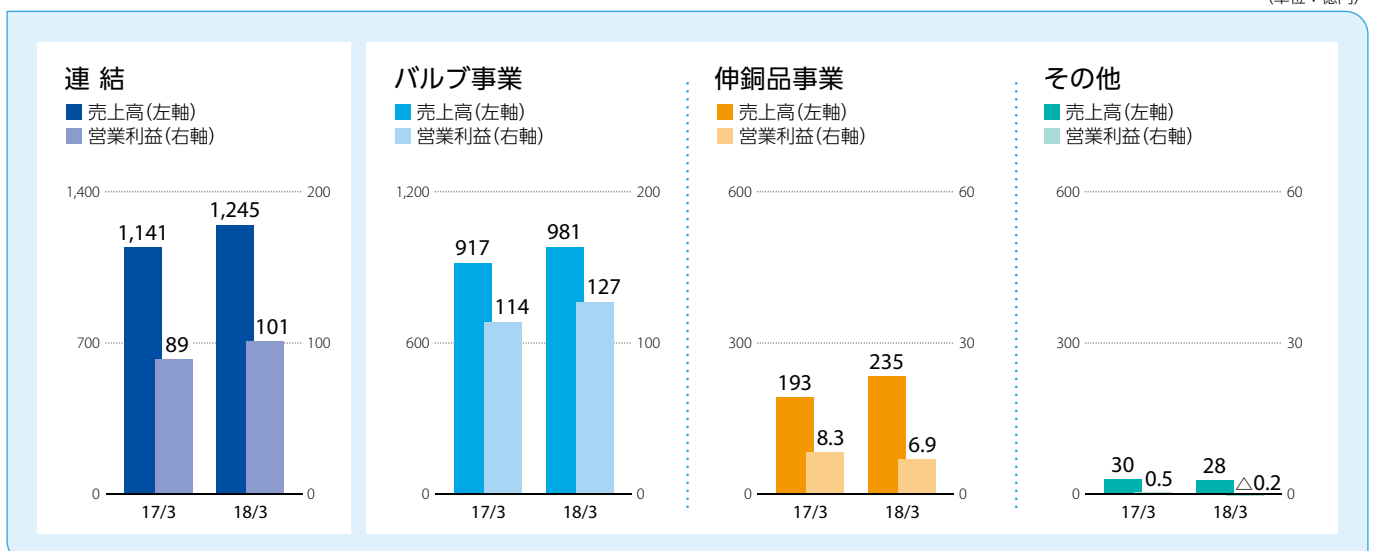
Q 営業利益も大幅に増加しました。 A バルブ事業は大幅な増益を達成、伸銅品事業は減益

バルブ事業では、原材料価格の上昇による製造コストの増加などはありましたが、国内販売価格改定に伴う収益改善、原価低減活動、半導体製造装置向けの増収等の効果が表れ、前期比13億54百万円増の127億98百万円となりました。

伸銅品事業では、製造ライン改善による生産性向上はありましたが、第4四半期における原材料相場変動の影響もあり、前期比1億32百万円減の6億99百万円となりました。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)



※セグメント別営業利益は全社費用等消去前の数値

その他(サービス関連の事業)についても前期比87百万円の減益となりましたが、連結営業利益は、バルブ事業における増益が寄与し、前期比11億88百万円増の101億17百万円となり、第94期(2008年3月期)以来10期振りに100億円の大台を回復しました。経常利益についても、前期比9億34百万円増の97億33百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期(2017年3月期)に計上した、本社不動産の信託受益権の譲渡に伴う35億98百万円の特別損失(減損損失)がなくなった他、当期においても政策保有株式の一部を売却し、投資有価証券売却益を計上したことなどもあり、前期比11億17百万円増の65億18百万円となりました。



「第3期中期経営計画」の進捗

Q 今期の業績は「第3期中期経営計画」に対してどのような結果となりましたか。

A 売上高・利益の数値目標を1年前倒しで達成

売上高・利益の数値目標については、「第3期中期経営計画」の最終年度である2018年度計画を、1年前倒しで達成することができました。先ほどもお話したとおり、国内外ともに半導体製造装置向けが業績を大きくけん引して売上を伸ばした他、原価低減や国内販売価格改定による収益改善効果が利益目標の達成に大きく貢献しました。

Q 主な戦略の進捗について教えてください。

A 中長期の成長に向けた施策を展開

2017年8月、アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.がフィリピン・マニラに

駐在員事務所を開設した他、アセアン地域のユーザーにマッチした商品・サービスを提供するため、生産拠点であるKITZ (Thailand) Ltd.に技術部門を新たに設置しました。また、香港市場深耕のため、2018年1月には香港の販売法人KITZ Hong Kong Company Limitedが活動を開始するなど、海外拠点のさらなる充実強化を図りました。

半導体製造装置向けについては、旺盛な需要に対応するため、キッツエスシーティー新田SC工場に、2017年6月に新設したシステム製品専用工場をさらに増床するとともに、中国の生産拠点であるKITZ SCT Corporation of Kunshanに第2工場を設立しました。

伸銅品事業についても、生産性及び利益率の改善を目的として、老朽化した機械設備の大規模な更新投資を開始するなど、中長期の成長に向けた施策を展開しました。

また、業務プロセスの変革、情報や経営の可視化、業務の効率化を目指し、2019年1月の稼働開始を目標に、グローバル基幹システムの構築を進めています。

今期の経営計画

Q 今期の経営環境をどのように見ていらっしゃいますか。

A 国内は堅調さを持続、海外は底打ちを期待

国内向けでは首都圏の建築設備向けの好調が継続するとともに、年度の後半には東京オリンピック・パラリンピック関連の需要も

現れるなど、引き続き堅調であることが見込まれます。また、世界的な景気回復により、海外の需要も持ち直してくることが期待できる他、半導体市況も好調を維持することが想定されます。原材料相場の高止まりの懸念や積極的な設備投資に伴う減価償却費の増加はあるものの、事業環境は総じて明るいと見てよいでしょう。

Q 2018年度の数値目標について教えてください。

A 「KITZ Global Vision2020」の達成を視野に

2018年度はいよいよ、「第3期中期経営計画」の最終年度となります。売上高、営業利益ともに、計画を1年前倒しで達成できていることから、今期は、長期経営計画「KITZ Global Vision2020」の達成に向けてより高い数値目標を設定しました。バルブ事業の売上高については、2018年4月に買収したCephas Pipelines Corp.の売上が加わることもあり、初の1,000億円超え(1,050億円)を掲げています。また、経常利益も過去最高となる109億円を目標としています。

効率化や成長のためには投資が不可欠です。2018年度も、競争力を高めるための投資を戦略的に行い、グループ一丸となって経営計画の達成を目指してまいります。

Q 最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

A 企業価値の向上を目指して

当期末の配当金につきましては、1株当たり9円を予定しておりましたが、株主の皆様に一層の利益還元を図るべく1円を加算し、1株につき10円とさせていただきます。中間配当として7円の配当を実施しておりますので、年間では17円(前期比4円の増配)となり、1株当たりの年間配当額としては上場以来過去最高となりました。また、配当金に加えて、株主様への利益還元として、2017年4月に136万72百株を、さらに、2017年12月から2018年2月にかけて269万31百株の自己株式を取得しました。これにより、当期の総還元性向は80.0%となりました。なお、保有する自己株式の内、1,000万株を2018年3月に消却しております。

今後も、企業価値の持続的な向上を目指し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいる所存ですので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第3期中期経営計画(2016~2018年度)の数値目標

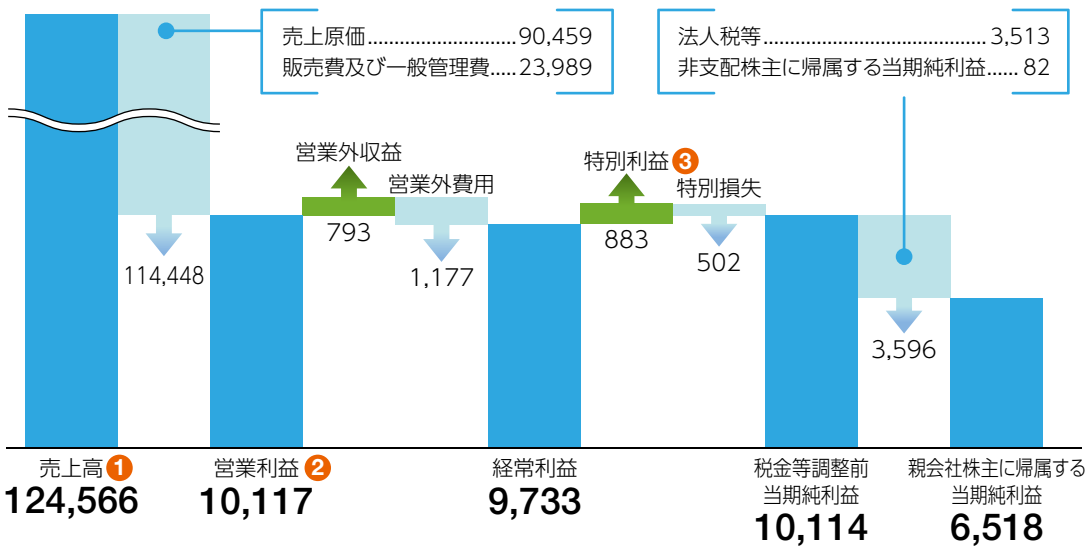
	2016年度		2017年度			2018年度	
	中期経営計画 (2016年5月公表)	実績	中期経営計画 (2016年5月公表)	経営計画 (2017年5月公表)	実績	中期経営計画 (2016年5月公表)	経営計画 (2018年5月公表)
売上高	▶ 1,115億円	▶ 1,141億円	▶ 1,150億円	▶ 1,170億円	▶ 1,245億円	▶ 1,200億円	▶ 1,320億円
営業利益	▶ 80億円	▶ 89億円	▶ 90億円	▶ 100億円	▶ 101億円	▶ 100億円	▶ 112億円
経常利益	▶ 77億円	▶ 87億円	▶ 87億円	▶ 97億円	▶ 97億円	▶ 97億円	▶ 109億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	▶ 50億円	▶ 54億円	▶ 57億円	▶ 63億円	▶ 65億円	▶ 63億円	▶ 71億円
営業利益率	▶ 7.2%	▶ 7.8%	▶ 7.8%	▶ 8.5%	▶ 8.1%	▶ 8.3%	▶ 8.5%
海外売上高比率	▶ 31.8%	▶ 29.7%	▶ 32.7%	▶ 29.1%	▶ 27.9%	▶ 34.2%	▶ 29.8%
ROE	▶ 6.6%	▶ 7.3%	▶ 7.2%	▶ 8.5%	▶ 8.7%	▶ 7.7%	▶ 9.1%
自己資本比率	▶ 63.9%	▶ 61.9%	▶ 64.7%	▶ 64.1%	▶ 56.8%	▶ 64.0%	▶ 58.8%
セグメント別売上高							
バルブ事業	▶ 920億円	▶ 917億円	▶ 950億円	▶ 940億円	▶ 981億円	▶ 1,000億円	▶ 1,050億円
伸銅品事業	▶ 164億円	▶ 193億円	▶ 165億円	▶ 200億円	▶ 235億円	▶ 165億円	▶ 240億円
その他	▶ 31億円	▶ 30億円	▶ 35億円	▶ 30億円	▶ 28億円	▶ 35億円	▶ 30億円
セグメント別営業利益							
バルブ事業	▶ 110億円	▶ 114億円	▶ 119億円	▶ 130億円	▶ 127億円	▶ 131億円	▶ 139億円
伸銅品事業	▶ 2億円	▶ 8億円	▶ 3億円	▶ 4億円	▶ 6億円	▶ 1億円	▶ 6億円
その他	▶ 1億円	▶ 0.5億円	▶ 1億円	▶ 0.5億円	▶ △0.2億円	▶ 1億円	▶ 0.5億円

業績ハイライト

連結損益計算書の概要

当期 (2017年4月1日~2018年3月31日)

(単位: 百万円)



Point 1

売上高
バルブ事業において、半導体製造装置向けに大幅な増収となった他、国内建築設備向けが好調に推移しました。伸銅品事業においても、原材料相場の上昇に伴う販売価格の上昇により大幅な増収となった結果、前期比9.2%増の1,245億66百万円となりました。

Point 2

営業利益
原材料価格の上昇による製造コストの増加はありましたが、国内販売価格改定に伴う収益改善、半導体製造装置向けの増収の他、引き続き原価低減に努めた結果、前期比13.3%増の101億17百万円となりました。

Point 3

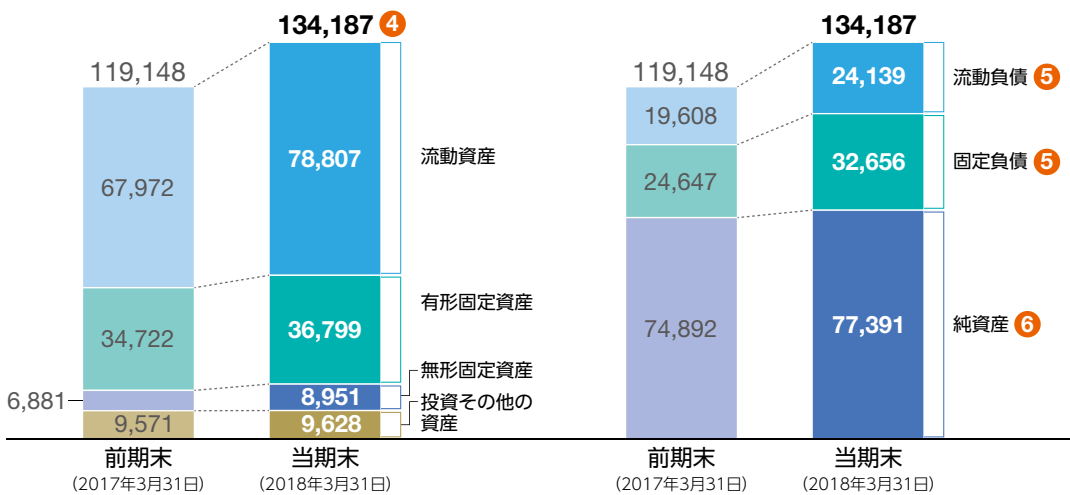
特別利益
政策保有株式の一部を売却し、投資有価証券売却益8億69百万円などを計上しました。

連結貸借対照表の概要

資産の部

負債・純資産の部

(単位: 百万円)



Point 4

総資産
2018年3月に第4回無担保公募社債100億円を発行したことにより、現金及び預金が増加しました。また、売上債権及びたな卸資産の他、基幹システム投資による増加もあり、前期末に比べ150億39百万円増加しました。

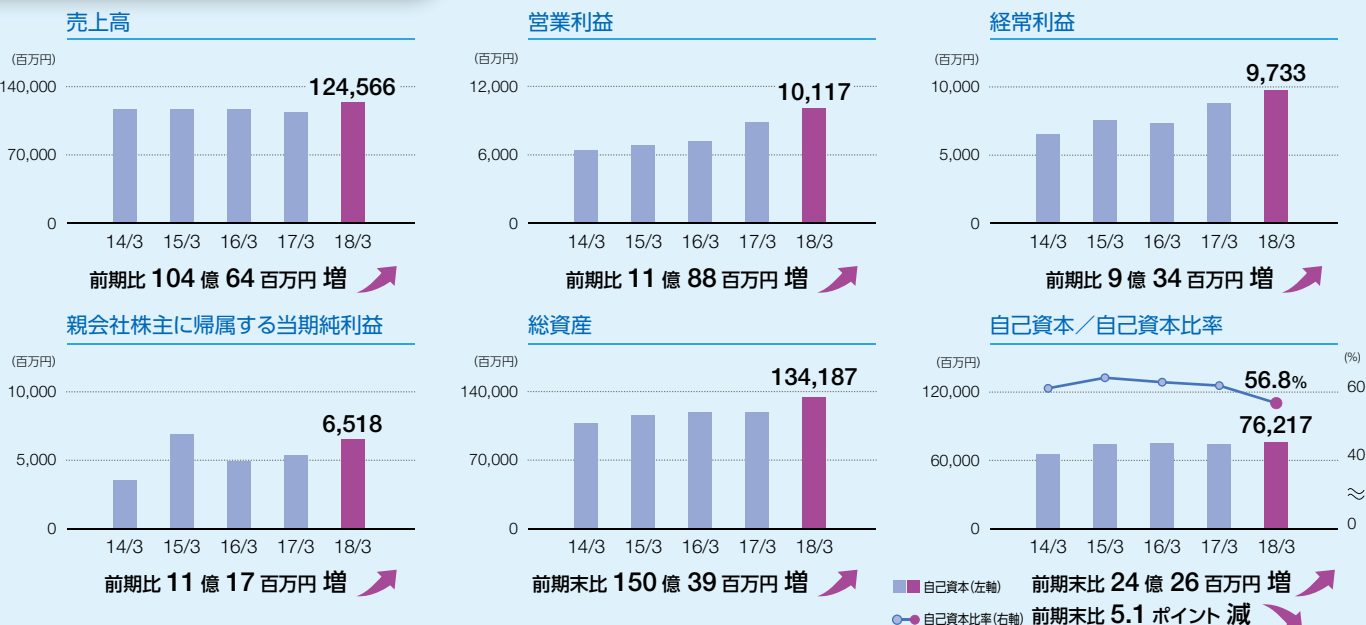
Point 5

負債合計
第4回無担保公募社債100億円を発行したことなどにより、前期末に比べ125億40百万円増加しました。

Point 6

純資産
自己株式の取得35億32百万円の他、配当金の支払いなどはありましたが、親会社株主に帰属する当期純利益65億18百万円により、前期末に比べ24億98百万円増加しました。

主要連結財務指標の推移



※本株主通信中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

韓国の工業用バタフライバルブメーカーを買収

2018年4月、韓国の工業用バタフライバルブメーカー Cephos Pipelines Corp.(以下、Cephos)を子会社としました。

近年はプラントの大規模化に伴い、使用される配管の口径が大きくなる傾向にあり、大口径に適したバタフライバルブが求められています。Cephosは、大口径まで生産可能なバタフライバルブの専門メーカーであり、石油化学、

● Cephos Pipelines Corp.

所在地	大韓民国・釜山
事業内容	工業用バタフライバルブの製造・販売
設立	1990年7月

石油精製、発電所、海水淡水化設備及び船舶などで使用される工業用バタフライバルブに強みを持っています。

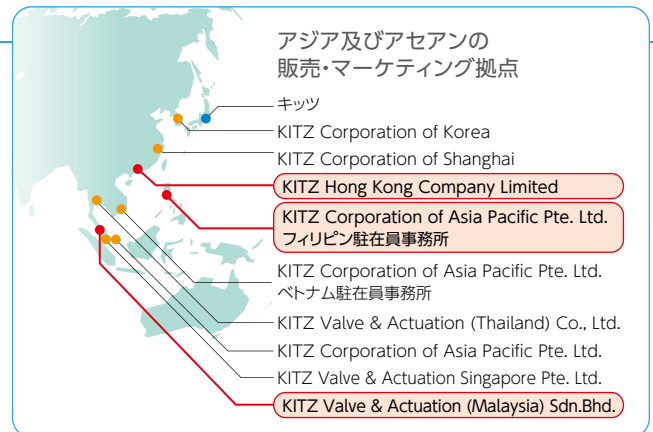
キッツは、2014年より、Cephosのバタフライバルブを調達しており、すでに国内外において多数の納入実績があります。今後は、両社の強みを活かした生産体制を構築し、さらにキッツのグローバルネットワークにより、バタフライバルブの売上拡大を図ってまいります。



アジアに3つの拠点を開設

中国市場においては、グループ会社KITZ Corporation of Shanghaiが販売活動を展開していますが、香港市場でのさらなる拡販のため、2018年1月、香港の販売現地法人KITZ Hong Kong Company Limitedが活動を開始しました。

また、アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.は、2011年の設立以来、シンガポール、タイ、ベトナムに拠点を設置し、事業を展開してきました。アセアンでの拡販及びマーケティング活動をより強力に推進するため、2017年8月にフィリピン・マニラに駐在員事務所を開設、さらに2017年12月にマレーシア・ジョホールバルに販売現地法人KITZ Valve & Actuation (Malaysia) Sdn.Bhd.を設立しました。



今後も現地のお客様に満足していただける商品・サービスを提供するため、海外拠点のさらなる充実・強化を図ってまいります。

社会貢献活動

山梨・長野のプロスポーツチームを支援

山梨県に長坂工場が、また、長野県には伊那工場と茅野工場の他、キッツグループの多くの事業所が所在しています。キッツは、これらの地域の子どもの育成に力を入れている地元のプロスポーツチームを支援。2013年より行っているサッカーJ2リーグのヴァンフォーレ甲府(山梨県

甲府市)に、2018年より松本山雅FC(長野県松本市)及びバレーボールV1リーグのVC長野トライデンツ(長野県上伊那郡)を加え、地域の振興と子どもたちの健全な育成、スポーツ文化の発展に貢献する活動を行っています。



小型パッケージユニットを用いた水素ステーションを長坂工場に建設

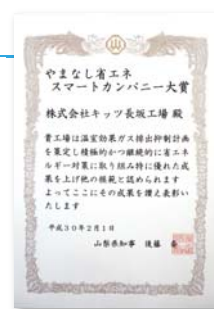


2018年4月、一般的な水素ステーションよりも小規模な、小型パッケージユニット(圧縮機・蓄圧器ユニット)を用いた水素ステーションが長坂工場に完成、燃料電池自動車及び燃料電池フォークリフトを社用車として実際に活用し、運用の実証を開始しました。

これにより、今後のバルブ開発のための技術蓄積を行うとともに、将来的には、コンパクトで高機能、安価な小型パッケージユニットを市場へ提案することも視野に実証を進めてまいります。

長坂工場「やまなし省エネスマートカンパニー大賞」受賞

長坂工場が「平成29年度やまなし省エネスマートカンパニー大賞」を受賞しました。省エネスマートカンパニー大賞とは、省エネ対策に積極的かつ継続的に取り組み、優れた成果を上げた事業者を山梨県が表彰するものです。今年度は大賞1社、奨励賞5社が選出され、長坂工場は、2011年の東日本大震災を契機として取り組んだ6年にわたる活動の成果が高く評価され、栄えある大賞を受賞しました。



グローバルな採用活動を展開

海外の優秀な人財との出会いを求め、シンガポールで開催された人財採用イベントに初めて参加しました。キッツの他、タイとシンガポールの販売現地法人が共同で会社説明を行い、今回は2名の入社が決定しました。

今後も、多様な人財を採用できるよう、新たなチャネルの開拓を進めてまいります。



株主優待のご案内

キッツは、株主の皆様からのご支援に対する感謝の気持ちを込めて、株主優待を実施しています(3月末現在、ご所有株式数1,000株以上)。

● オリジナルクオカード

1,000株以上	1,000円券	1枚
2,000株以上	2,000円券	1枚
3,000株以上	3,000円券	1枚



● グループ会社優待券

キッツグループの商品・サービスより、家庭用浄水器及びホテルの各種優待券をご用意しています。



家庭用浄水器「ピュリアフリー」

● 北澤美術館

ガラス工芸品カレンダー 1部

2018年版カレンダー



● 長期保有株主優待

2018年3月末現在、5年以上かつ1,000株以上ご所有の株主様につきましては、従来からの優待に加え、北澤美術館 日本画カレンダーの大判サイズまたは卓上サイズ、「平成28年熊本地震災害義援金」への寄付よりいずれか1点をお選びいただけます。

昨年度、「平成28年熊本地震災害義援金」への寄付をお選びいただいた株主様からの義援金につきましては、日本赤十字社を通じて寄付いたしましたのでご報告申し上げます。
寄付金額:575,000円 寄付日:2017年12月28日

● 新規株主様への優待

9月末現在、新規で1,000株以上ご所有の株主様に、北澤美術館 ガラス工芸品カレンダーを1部お送りいたします。

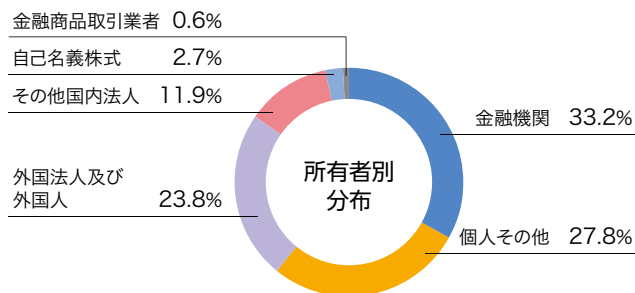
株式の状況

- 発行可能株式総数 400,000,000株
 - 発行済株式の総数 97,672,560株
- (注) 1. 2018年3月23日付にて実施した自己株式の消却に伴い、発行済株式の総数は10,000,000株減少しております。
2. 上記の発行済株式の総数には、当社が2018年3月31日に保有する自己株式2,723,951株を含めておりません。

- 株主数 9,535名
- 大株主(上位10位)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	9,905	10.14
日本生命保険相互会社	4,320	4.42
北沢会持株会	4,281	4.38
GOVERNMENT OF NORWAY	3,964	4.06
住友生命保険相互会社	3,448	3.53
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,998	3.07
キッツ取引先持株会	2,985	3.06
株式会社三井住友銀行	2,553	2.61
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,345	2.40

- (注) 1. 当社は、2018年3月31日現在、自己株式2,723千株を保有しており、上記大株主から除外しております。また、持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いて計算しております。なお、当社は、「役員報酬BIP信託」を採用しており、日本マスタートラスト信託銀行(株)が当社株式329千株を保有しておりますが、当該自己株式には含めておりません。
2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 9,905千株
日本マスタートラスト信託銀行(株) 2,998千株
3. 日本生命保険(相)の持株数には、特別勘定年金口17千株を含んでおります。
4. 住友生命保険(相)の持株数には、変額口10千株及び特別勘定29千株を含んでおります。



期末配当金のお支払について

2018年5月29日開催の当社取締役会におきまして、第104期の期末配当金について、以下の通り決議されております。

期末配当金:1株につき 金10円

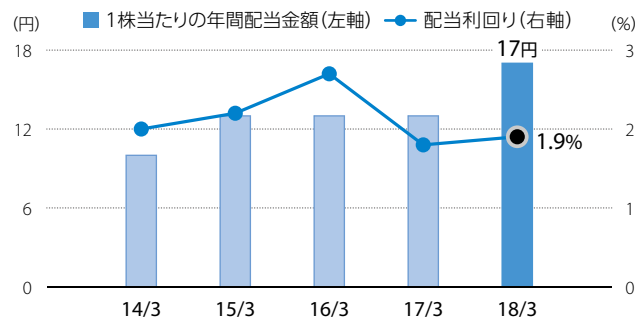
(中間配当金として2017年12月に1株につき7円の配当を実施しておりますので、年間の配当金は1株につき17円となります)

効力発生日ならびに支払開始日:2018年6月4日(月)

同封の「第104期期末配当金領収書」により、払渡しの期間(2018年6月4日~7月5日)内に最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行等口座振込をご指定の方には、「第104期期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」の記載をご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

配当方針

キッツは、配当金を、株主の皆様への利益還元として経営上の重要課題と位置付けており、配当性向につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準と考えています。また、連結総還元性向については、従来、親会社株主に帰属する当期純利益の3分の1前後を目指してまいりましたが、「第3期中期経営計画」において、自己株式の取得にさらに積極的に取り組み、株主の皆様への利益還元をより一層充実させる方針を掲げております。



株主メモ

- 事業年度 4月1日~翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日 定時株主総会議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- 公告掲載方法 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
電子公告
公告掲載URL (<http://www.kitz.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
電話 0120-232-711 (通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

会社概要 (2018年3月31日現在)

- 商号 株式会社キッツ
- 本社 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1
TEL (043)299-0111(大代表)
- 代表者 代表取締役社長 堀田 康之
- 資本金 21,207,084,670円
- 設立年月日 1951年1月26日
- 従業員数 (単体)1,266名 (連結)4,762名

ウェブサイトのご案内

企業情報の他、決算情報や財務データなどを掲載しています。



<http://www.kitz.co.jp/>

